

学校のエアコン設置

4年後から 来年前倒し!

1月7日、枝広直幹市長が記者会見し、小・中学校のエアコン設置計画について、当初の2022年完了予定を前倒しし、来年度中の設置に向けて補正予算案を提出する方針を明らかにしました。



「一刻も早い設置を」運動広がる



昨今の酷暑は、子どもの命を脅かしかねません。9月に発表された設置計画は、保護者や子どもたちに喜ばれる一方で「4年もかかるのは遅すぎる」との声が大きく上がりました。

福山市母親大会実行委員会が4220筆の署名とともに要望書を市長・教育長に提出。市内の地域PTAが署名に取り組んでいるとの報道もあります。

日本共産党市議団は9月議会で、国が早期設置のための補正予算を組む方針であることを指摘し、時間のかかる民間への一括委託(PFI方式)ではなく市内業者に分割発注するなど、早期設置に向けたあらゆる努力を行うよう求めました。

国の「交付金」の活用を求めて

全国的にも大きく運動が広がり、国は10月の補正予算で「臨時特例交付金」を新設しました。来年度中にエアコンの設置事業を実施すれば、自治体の財政負担が大幅に軽くなります。日本共産党市議団は、交付金を申請するよう市教育委員会に強く要請しました。

「新日本婦人の会」福山支部も、交付金申請と来年6月までの設置を求め、市に緊急要望書を提出しました。



市民の声が政治を変える

市は整備手法を見直し、交付金をもとに直接施工で工期を前倒しする考えを決めました。市民一人ひとりの声が市の決断を大きく後押ししました。日本共産党市議団は引き続き、みなさんと力をあわせ、市民の要求実現に全力で取り組みます。

